

上 田 勉

◆ロシア軍、ウクライナに侵略、原発を占拠 □核兵器と原発、戦争について考える

第二次世界大戦が終わって、世界は米国とソ連の2つの陣営に分かれました。冷戦時代の始まりです。米国は核兵器（原水爆）の独占を狙いましたが、ソ連が原水爆実験に成功し、英国と仏国も続けました。

その結果、米国は、アイゼンハワー大統領が国連総会で、「アトミック・フォア・ピース（原子力の平和利用）」を主張して、原発の開発と輸出に乗り出します。核兵器の技術を維持するためには、原発の開発が必要だったからです。原発から出るプルトニウムによって、核兵器が製造できます。現にインドは原発のプルトニウムから、核兵器を製造しました。

原発には、稼働中や廃炉にするのにもかかわらず、使用済み核燃料が保管されています。使用済み核燃料は高温になると爆発するので、高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター（六ヶ所村）に移動するまでは、原発敷地内で冷却しなければなりません（乾式保存も有り）。

チェルノブイリ原発やザポリージャ原発が、ロシア軍によって攻撃されて、占拠されました。もしも、電源喪失によって、使用済み核燃料が冷却されなくなれば、大事故につながります。ジュネーブ条約附属議定書第1の第56条では、「危険な力を内蔵するダム、堤防、原子力発電所などの工作物等を戦時下に保護するよう」定められています。今回のロシア軍による原発占拠によって、原発は敵国からの軍事目標になること、そして、万が一冷却装置が破壊されたら、大事故になることが明らかになりました。日本の原発は、テロ対策はされていますが、敵国からの攻撃やミサイル攻撃については対策がありません。

かつて、福島第一原発の北側で、東北電力の浪江小高原原発が計画されました。東北電力や福島県・浪江町・南相馬市は、原発建設のために、あらゆる手段を使いました。原発建設に反対する地権者に対して、家族が病気の人には金銭を、子供が就職する家族には関係会社への就職をあっせんして、反対の地権者を賛成に替えようとしてきました。しかし、将来も農業をしたいとする地権者の強い反対や、共有地を原発反対の個人に分割登記する運動などによって、この建設計画は挫折しました。その後、浪江町は、宇宙開発事業団のロケット発射場建設の候補地に立候補しようとしてきました。しかし、万が一ロケットが福島第一原発に落下したら、という懸念から採用されませんでした。

私は2018年12月から19年1月にかけて、チェルノブイリ原発を見学するために、ウクライナのキエフへ行きました。西側の、今ポーランドへの避難の中心の街、リビウにも行きました。特にリビウは昔からの街で、路面電車が走っていて、夜になると多くの人が市庁舎の周りに集まって来ます。冬で寒かったですが、そこで食事をしたり、飲んだりして、歓談します。本当に平和で生活しやすい庶民的な街でした。宿泊したホテルやカフェで世話をしてくれた人たちが今どうしているのか、本当に心配です。私ももう少し若ければ、ポーランドへ飛んで行って、避難してくる多くの人達のボランティア活動をしたいです。

『戦争より平和』トルストイ、『罪も罰も』ドストエフスキー（「朝日新聞」かたえくぼ）



【石棺のチェルノブイリ原発（背後）を説明してくれたアナスタシアさん—今どうしているか本当に心配です（チェルノブイリ）】



【路面電車が走る西部の庶民的な街—今では隣国ポーランドへ避難する人たちの中継基地に（リビウ）】